



徳島大学病院と徳島県立中央病院とを結ぶ連絡橋がこの春完成し、夏には総合メディカルゾーンが内閣府から総合特区として認定されました。総合特区では様々な規制が緩和されます。たとえば通常の2病院間では許されていない施設の共同利用や物品の共同購入が許可され、患者や医療従事者が大学と中央病院を往来することも可能となるわけです。具体的にどこまで規制が緩和されるかはまだ明らかでなく今後の交渉にかかっていますが、全国に先立つ医療特区として注目されています。総合メディカルゾーンの使命は県民に高度で安全な医療を展開することですが、人材育成の場としても期待されています。教職員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



(2012年 秋) 徳島大学病院長 安井夏生

卒後臨床研修センターの広報活動

徳島大学病院卒後臨床研修センターでは、本年も研修医の獲得に向けて様々な広報活動を行っています。6/16(土)には徳島大学病院基幹型卒後臨床研修プログラム説明会を行いました。今年も昨年と同様に二部構成とし、一部は第二臨床講堂で徳島大学病院卒後臨床研修プログラムの概要についての説明と研修医・若手医師による体験談プレゼンテーションを、二部はリハビリテーションセンターで徳島大学病院・協力病院による合同説明会をブース形式で行いました。悪天候の中ではありましたが昨年よりも出展ブースの数は大幅に増加し、さらに多くの診療科、協力病院のスタッフや研修医から直接話が聞けるとあって、マッチングを控えた徳島大学の6年生のみならず、4年生や5年生、他大学の学生の方にもご参加いただくことができました。

県外における医学部学生を対象とした大規模な合同説明会には、研修医と卒後臨床研修センターの専任スタッフで毎年、徳島大学病院をアピールするために参加しています。今年度も岡山での中国四国地区医師臨床研修病院合同説明会、大阪と東京で行われたレジナビフェアで、各診療科の阿波踊り連のうちわをブースに飾り付けPRしてきました。これらの説明会を機に病院見学に来られる県外からの学生も増加しています。

また、ホームページ(<http://www.tokudai-sotsugo.jp>)もアクセス数が毎月増加しており、研修医の様子を発信する卒後臨床研修センターのブログを始め、ホームページから閲覧できるようになっています。研修医の状況をぜひご覧ください。

これからも楽しく実りある広報活動を行っていこうと思っていますので、今後ともどうぞ協力をよろしくお願いいたします。



プログラム説明会 第2部(リハビリテーションセンター)



“全ての研修医を活かす” 徳島大学病院

徳島大学病院 研修医奮闘記

徳島大学病院 Bon Voyage プログラム
(協力病院: 徳島県立中央病院)
2年次研修医 万野 朱美

「出逢い」。私の研修医の2年間は本当にこの一言に尽きます。

教科書や問題集にとらめっこしていた受験生から一転、毎日本当にたくさんの出逢いがありました。患者さんやそのご家族、指導医の先生方に、同期、先輩後輩、そして数多くの疾患、難題…その出逢い一つひとつが私を育ててくれました。特に、私達研修医にとって、上級医の先生方との出逢いというのはこれからの人生を左右するといってもいいぐらい大きいものがあります。

私は幼い頃のあるきっかけで医師を目指すようになりましたが、当時からよく「病気がなくて病人をみる」という言葉を耳にしていました。医学部受験の際には面接ではこの言葉を言えばいいという風潮さえある、そんな台詞です。しかし、実際の臨床現場では口に出すまでもなく、当たり前のようにそんな医療が行われていました。徹夜で患者さんの病態について一緒に考えてくださった先生、眼を潤ませながらご家族へ病状説明をしていた先生、飲み会は最後に帰っても朝一番に病棟にいる先生、患者さんのことも奥さんのことも大好きな先生…。私が出逢った先生は、どの方も医師として、また人間として尊敬できる先生ばかりでした。だからこそ、この2年間はたくさん泣きましたが、それ以上に笑顔になれることの方が多かったのだと思います。そんな出逢いから学んだことを糧にして、そして、これからもそんな出逢いを大切に、明日からまた、先生方に一歩でも近づけるように、頑張りたいと思っています。

これから研修がスタートする皆さん、私達は本当に恵まれたありがたい環境で研修させてもらっています。素晴らしい出逢いに感謝しながら、真面目に謙虚に素直に頑張っていきたいと思います。



徳島大学病院精神神経科研修中。病棟にて。(左が執筆者)

第2回 徳島GMラウンド開催

10/6(土)日垂メディカルホールにて徳島県地域医療支援センター第2回徳島GM(General Medicine)ラウンドが徳島大学病院主催で行われました。これは県内の地域医療に携わる若手医師のキャリア形成支援事業の一環として今年度より始められた企画で、8月には県立中央病院主催で第1回が開催されました。

今回は聖路加国際病院アレルギー膠原病科部長の岡田正人先生を講師にお招きし、「不明熱と関節痛を究める!」というテーマでケーススタディと講義をしていただきました。医学科の学生や地域で活躍されている先生方に加え研修医もたくさん参加し、先生のエネルギーあふれるお話で大変密度の濃い時間を過ごすことができました。先生御自身のキャリア形成についてのお話を拝聴できたこともよい刺激になったのではと思います。朝から夜まで、かなりの長丁場であったにもかかわらず、お一人で最後まで熱のこもったご講演をいただきました。岡田先生に大変感謝いたします。



日垂メディカルホール(西病棟11階)



聖路加国際病院 岡田正人先生

内科

徳島大学病院内科には呼吸器・膠原病内科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、消化器内科、内分泌代謝内科、神経内科の7つの小診療科があります。内科の後期臨床研修プログラムは初期研修2年で体得した知識・診療技能をさらに深め総合内科医もしくは専門内科医へとステップアップしていくように企画されています。専門医研修システムとしては、7つの内科各診療科より選択した特定の専門領域を研修するコースと、プライマリ・ケア志向の総合内科診療研修コース(希望に応じて3~6ヶ月単位で複数の内科小診療科のローテーション)を用意しています。臨床研究に興味のある方は大学院に進学し、同時に専門医資格取得も可能です。つまり、専門医志望者にも総合内科志望者にも、また研究志向者にも無駄なく対応できる柔軟な研修システムとなっております。指導医側も臨床研修指導医養成講習会に積極的に参加するなどレベルアップ・アップデートに努めています。

内分泌・代謝内科

(科長 松本 俊夫)

内分泌腺が産生するホルモンは全身臓器の機能調節に関わり、生体のホメオスタシス維持に必須です。また、代謝異常症には糖尿病、脂質代謝異常症、痛風、骨粗鬆症など頻度の高い生活習慣病が多く、その理解は不可欠です。内分泌・代謝疾患では神経、呼吸器、循環器、血液領域などにまたがる多彩な全身症状を呈します。当科では、内分泌代謝疾患患者の診療を通じて、臨床医として必要とされる幅広い病態の理解と的確な診断能力、そして適切な治療方針の立案能力を身につけた医師を育成しています。



連絡先 松本 俊夫 toshimat@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7120 fax.088-633-7121 http://square.umin.ac.jp/TUBioReg/index.html

血液内科

(科長 安倍 正博)

血液内科では、造血障害、造血器腫瘍や免疫不全を中心とした疾患に対し、造血幹細胞移植術などの新しい診断技術や治療法を取り入れ幅広く診療を展開しております。このような治療の遂行においては、コメディカルとのチームによる全人的かつ専門的診療が重要です。当科ではコメディカルと一体となり患者の全身管理ができるバランスのとれた医師の育成を目指しています。



連絡先 安倍 正博 masabe@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7120 fax.088-633-7121 http://square.umin.ac.jp/TUBioReg/index.html

消化器内科

(科長 高山 哲治)

当科では、消化器疾患の診療を中心に、内科を幅広く診療できる医師の育成を目指しています。消化器診療においては、早期胃癌・食道癌・大腸癌に対する粘膜下剥離術(ESD)を多数行い、肝臓に対してはラジオ波焼灼術や高度なインターベンション治療を多数行っています。また、種々の進行消化器癌に対して最新の分子標的治療薬を含めた質の高い化学療法を行うとともに優れた全身管理を行っています。当科における研修システムでは指導医が充実しており、指導医と研修医が一体となって最善の医療を提供しております。



連絡先 岡久 稔也 okahisa@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7124 fax.088-633-9235 http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=2

循環器内科

(科長 佐田 政隆)

循環器内科はプライマリケアから非侵襲的画像検査、カテーテル治療などの専門・高度医療にわたる幅広い領域をカバーしています。当科では救急集中治療部と合同で循環器救急24時間体制を構築しており、徳島県内の各種医療機関との病診連携も積極的に行っています。臨床研修については、四国はもとより東京、大阪、神戸などの県外医療機関と積極的に連携して、各自の将来設計に柔軟に対応できるプログラムを提供しています。



連絡先 佐田 政隆 sata@clin.med.tokushima-u.ac.jp 岩瀬 俊 tiwase@clin.med.tokushima-u.ac.jp (卒後研修主任) tel.088-633-7851 fax.088-633-7894 http://square.umin.ac.jp/TOKUSHIM/

呼吸器・膠原病内科

(科長 西岡 安彦)

肺癌、肺炎、気管支喘息、リウマチ疾患を中心に、指導医・専門医のもとチーム医療を推進しています。難治性の呼吸器・膠原病疾患に対して、抗癌剤、抗菌薬、ステロイド・免疫抑制剤を用いた専門治療を行っています。生物製剤によるリウマチ治療、間質性肺炎・睡眠時無呼吸症候群など良性呼吸器疾患診療でも県内で中心的な役割を果たしています。海外留学・留学受入も常時行っており、国際感覚に富んだ医療人育成をめざしています。



連絡先 埴淵 昌毅 mhoney@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7127 fax.088-633-2134 http://sannai.umin.jp/

神経内科

(科長 梶 龍児)

かつては「わからない・なおらない」と揶揄された時代もあったらしいのですが、時代はダイナミックに変わっております。頭の先から指の先までの神経の症状、神経難病、脳卒中(SCU)から日常遭遇する一般的な症状(頭痛・物忘れ・手足のしびれ感)に至るまでを「治る神経内科」を実践しております。ストレートな専門医試験合格にも定評があります。国内・海外への留学実績も豊富です。

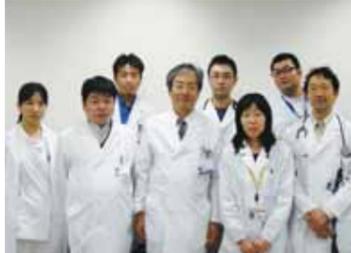


連絡先 和泉 唯信 yizumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp 野寺 裕之 hnodera@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7207 fax.088-633-7208 http://www.neuro-tokushima.com

腎臓内科

(科長 土井 俊夫)

腎臓内科では、県下一円から難治性の腎疾患患者を受け入れています。腎臓内科の診療活動は、ネフローゼ症候群・腎炎などの腎疾患の診断治療と慢性腎不全の透析導入、透析室管理の3つの柱からなっています。糖尿病、高血圧、膠原病など全身性疾患からの腎障害も多く、広く内科全般に渡る症例を経験するとともに、術前後を含めた透析管理を研修していただきます。当科での取得可能専門医:総合内科専門医・腎臓専門医・透析専門医。



連絡先 土井 俊夫 doi@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7184 fax.088-633-9245 http://www.tokudai-kidney.jp/

皮膚科

(科長 久保 宜明)

皮膚科は現在、11人で毎日平均70人の外来患者、16人の入院患者を診ながら、教育、研究を行っています。過去10年間の新入医師は年平均2人です。後期研修の目標は、①実学としての皮膚科学の習熟、②皮膚科専門医取得、③研究です。全て卒業後が勝負で、体力、気力、好奇心をもち、他人と話ができさえすれば大丈夫です。また研究にも興味を示してほしいと思います。いずれにせよ、皮膚科を選んだことを後悔することはありません。



連絡先 久保 宜明 ykubo@clin.med.tokushima-u.ac.jp 石上 剛史(総務医長) ishigami@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7154 fax.088-632-0434 http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=17

放射線診断科

(科長 原田 雅史)

放射線診断科では画像診断(CT、MRI、核医学、超音波、消化管透視)、IVR(血管内治療、CTガイド下生検など)を行っています。現代の医療において画像診断は必要不可欠です。全国トップクラスの検査装置、画像診断システムに恵まれた環境のもと、最先端の医療に携わってみませんか。研究においても各々の分野で多くの臨床研究を行っています。また、家庭を持った女性医師でも働きやすい環境作りにも努めており、そのような女性医師の入局も歓迎です。

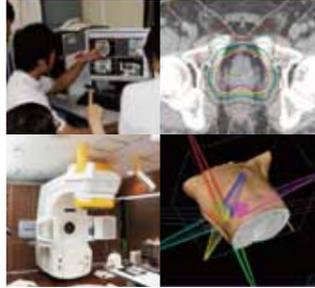


連絡先 原田 雅史 masafumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7173 fax.088-633-7174 http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=25

放射線治療科

(科長 生島 仁史)

徳島大学病院放射線治療科では高精度外部放射線治療対応のリニアック3台(Novalis TX 1台を含む)、三次元治療計画装置と密封小線源治療システムを有しています。これらの設備に年間約900人の新規患者を受け入れており、中四国ではNo. 1の新規患者数を誇る国内でも有数の放射線治療施設です。当科では粒子線治療を除くすべての放射線治療技術の研修が可能です。緩和医療を含む広範ながん医療を他の診療科と共同で行う中で、チーム医療を実践できる低侵襲がん診療技術を習得したがんプロフェッショナルを育成しています。

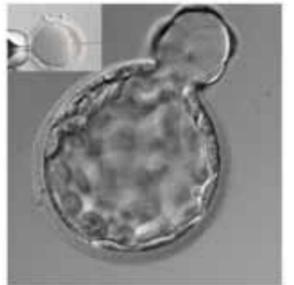


連絡先 川中 崇 kawanaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7173 fax.088-633-7174 http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=26

産科婦人科

(科長 苜原 稔)

現在医局員は、苜原稔教授をはじめとして20名。診療面では生殖、腫瘍、周産期、女性医学の4診療部門があり、どの部門も全国でトップレベルの成績です。分娩数は年間649件、手術件数は594件(平成23年度)。研究面では5つの研究班に分かれて、基礎的および臨床的研究を行っています。教育面ではカリキュラムを組み、学生、初期研修医の指導を行っています。産科婦人科に興味のある人は是非連絡下さい。



連絡先 苜原 稔 irahara@clin.med.tokushima-u.ac.jp 桑原 章 kuwahara@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7177 fax.088-631-2630 http://www.tokudai-sanfujinka.jp/Total/index.html

小児科

(科長 香美 祥二)

「私達自身の未来である子ども達の健康を守ること、一般小児科臨床の基本を習得した上で更に小児科サブスペシャリティー(専門分野)での診療能力を養うこと」を目標に、小児科は医局員一同、切磋琢磨しています。香美祥二教授のもと、伝統を守りつつも新しいことに挑戦する姿勢で、日々診療に研究に努力しています。子ども達のために21世紀の小児医療を背負う若手医師の入局を、心からお待ちしています!!



連絡先 渡辺 浩良 hwatana@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7135 fax.088-631-8697 http://www.tokudai-pediatrics.net/

精神科神経科/心身症科

(科長 大森 哲郎)

今、精神科医が求められています。精神科の敷居が低くなり受診者が増え続ける現状に加え、教育や行政からのニーズも激増しております。精神科は非常に守備範囲の広い診療科です。自分のライフスタイルや興味に合わせて方向性を選択することができます。指導体制の充実には自信があります。精神科医になるなら徳大精神科での研修を!



連絡先 住谷 さつき satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7130 fax.088-633-7131 http://www.med.tokushima-u.ac.jp/article/0015538.html

病理部

(部長 坂東 良美)

病理部は、病理組織診断・細胞診断を行うことにより、院内で実施される医療行為にevidenceを与える仕事を担っています。全国的に病理専門医数は絶対的に不足しています(徳島県では15名)。医療界全体が病理医の育成、獲得に必死になる時代が目の前に到来しつつあります。研修にあたっては、各人の事情(婚姻、子供の有無、勤務時間等)を考慮し、弾力的に対応します。若き人材の参入を心からお待ちしています。



連絡先 坂東 良美 yoshimi@basic.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7454 fax.088-633-9565 http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory_center.html?rank_code=dept&belong_code=12

外科

徳島大学病院外科は、消化器・移植外科、呼吸器外科、食道・乳腺甲状腺外科、心臓血管外科、小児外科・小児内視鏡外科から構成され、各科の専門医が協力し、臨床研修制度や専門医制度に対応した指導体制が整っています。

卒業2年間の臨床研修の後、徳島大学外科に所属し、まず外科専門医の取得を最優先しますが、この研修は徳島大学病院から始めることも関連施設から始めることも可能です。四国内の約40の地域基幹病院のほか関東や九州、沖縄にも関連施設があり、十分な外科修練を受けることが可能です。サブスペシャリティの選択は、外科所属、外科専門医取得後、いずれの時期でも結構です。その後は、(1)最新の基礎研究を行い、医学博士号の取得、海外留学を目指したコース、(2)臨床に重点を置き、サブスペシャリティ専門医の資格を先に目指すコース、(3)これらをバランス良く平行して修練するコースなどを設定し、いずれにしても入局後約10年以内の医学博士号とサブスペシャリティ専門医取得を目指します。外科を重点的に研修したい人のための初期臨床研修プログラムも準備しています。

消化器・移植外科

(科長 島田 光生)

「拡大切除・機能喪失から低侵襲・再生外科へ」をスローガンに肝胆膵外科領域では高難度手術、集学的治療、生体肝移植を行い、肝胆膵外科高度技能修練施設Aに徳島で唯一認定されています。消化管外科では胃癌、大腸癌手術とも年間100例を超えており、胃癌手術の4割、大腸癌手術の7割で鏡視下手術を行っています。最近では単孔式腹腔鏡手術(創は臍に1カ所のみ)を胆石症、ヘルニア、虫垂炎等に導入しています。ロボット手術(ダ・ヴィンチ)もすでに6例施行しました。鏡視下アミダラボを含む研修プログラムも用意しています。



連絡先 池本 哲也 tikemoto@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7139 fax.088-631-9698
http://www.tokugeka.com/

呼吸器外科

(科長 先山 正二)

当科は、肺癌、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍など腫瘍性疾患を中心として、ロート胸、膿胸、気胸など呼吸器外科疾患全般に関して診療を行っています。肺癌に対する胸腔鏡下手術、早期肺門部肺癌に対する光線力学方法や気道狭窄に対するステント、レーザー治療などを行っています。H24年7月よりda Vinciによるロボット手術を開始し、先端技術の導入にも積極的に取り組んでいます。外科におけるサブスペシャリティとしての呼吸器外科専門医取得のための充実した修練プログラムを用意しています。外科・呼吸器外科に興味ある若人よ、来たれ!



連絡先 中川 靖士 y-nakagawa@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7143 fax.088-633-7144
http://www.tksbizan.com/

食道・乳腺甲状腺外科

(科長 丹黒 章)

確かな技術を備えた外科医を育てることをモットーとしています。「確かな技術」とは、手術のテクニックのみならず、正確な診断、適切な手術適応の決定や、周術期の全身管理、初期治療から緩和治療まで、あらゆる治療に精通することを意味しています。全ては患者さんのためであり、それらの技術習得に必要な環境が私たちの教室には揃っています。「目の前の患者さんを自分の技術で治したい」。そんな熱く、優しいハートを持った若いドクターよ、集まれ!



連絡先 滝沢 宏光 htakizawa@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7143 fax.088-633-7144
http://www.tksbizan.com/

心臓血管外科

(科長 北川 哲也)

心臓血管外科医は、「自分の知と腕」をもって、病む患者さんの生きようとする力を支えてあげることのできる、やりがいのある仕事です。暖かい心と勇気を持ち、夢と情熱のある方は、当科で専門医研修をしませんか。君たちの想いに応えます。現代の社会環境でこそチャンスです。「Chance favors only the prepared mind!!」次代を担うのはあなたです。



連絡先 北市 隆 kitaichi@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7581 fax.088-633-7408
http://www.toku-cvs.umin.jp/

小児外科・小児内視鏡外科

(科長 石橋 広樹)

①小児外科の広範な疾患に対する治療:四国の小児外科の中心的施設として、胸部、腹部をはじめ小児悪性腫瘍および、泌尿器科領域まで広範な疾患をカバーしています。
②小児外科領域での鏡視下手術:小児単径ヘルニアに対するLPEC法その他、ヒルシュスプリング病、鎖肛、GERDなどなどに対しても積極的に鏡視下手術を施行しており、中国・四国地方では、唯一の日本内視鏡外科学会技術認定(小児外科)を取得しています。



連絡先 石橋 広樹 hiroki@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-9276 fax.088-631-9698
http://www.tokugeka.com/

泌尿器科

(科長 金山 博臣)

泌尿器科は、関連病院のほとんどが日本泌尿器科学会認定された基幹病院であり、症例も多く充実した研修が受けられます。さらに透視認定施設も多く、透視専門医の習得も可能です。早い段階から開腹手術だけでなく、腹腔鏡手術の執刀も行っており、腹腔鏡技術認定医・腎移植認定医等の習得も可能です。ロボット手術も導入しました。希望に応じて大学院進学、国内・海外留学もできます。泌尿器科に興味を持つ熱意ある先生の入局を大歓迎します。



連絡先 金山 博臣 kanahiro@clin.med.tokushima-u.ac.jp
井崎 博文 hirofumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7159 fax.088-633-7160
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=10

眼科

(科長 三田村 佳典)

人間は外界からの情報の80%を視覚から得ており、高齢化社会を迎え眼科学の重要性は増すばかりです。当教室では網膜硝子体、緑内障、角膜、斜視弱視、ぶどう膜炎、眼瞼眼窩といった広範囲の専門分野を研修することができます。また、独自の小切開硝子体手術器具を考案し質の高い網膜硝子体手術を行っており、日本で唯一AlphaCor(人工角膜)の手術も行っております。ぜひ、我々とともに活気あふれる教室を作ってゆきましょう。



連絡先 江川 麻理子 emari@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7163 fax.088-631-4848
http://www.tokushima-ganka.jp

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

(科長 武田 憲昭)

現代の耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、頭頸部の感覚運動医学、機能再建外科、頭頸部腫瘍外科を担当する科です。徳島大学耳鼻咽喉科では、耳鼻咽喉科の全ての担当範囲において国際トップレベルの医療を導入し、明るく楽しく積極的に、個性を尊重して個性を伸ばし、世界一の耳鼻咽喉科をめざしています。徳大耳鼻科で頭頸部のスペシャリストをめざしませんか?



連絡先 阿部 晃治 kabe@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7169 fax.088-633-7170
http://www.toku-oto.umin.jp

整形外科

(科長 安井 夏生)

整形外科は骨や筋肉・関節・神経など運動器を幅広く扱う診療科です。骨工学的な要素は多分にあります。骨は生き物であるところが大工さんとは異なります。整形外科は守備範囲が広く、なかなか一人前にならない一方で、誰でも努力すれば一流になりえるところが魅力です。徳島から世界にはばたく骨大工になりませんか。



連絡先 安井 夏生 nyasui@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7240 fax.088-633-0178
http://www.geocities.jp/ksairoy/orthop.html

脳神経外科

(科長 永廣 信治)

脳神経外科疾患には、救急医療から慢性期疾患まで幅広く対応します。脳血管障害、神経外傷は救急医療の多くの部分を占めており、救急医療の習得が可能です。徳島大学脳神経外科の後期研修プログラムでは脳神経外科疾患を全般的に経験することが可能であり、到達目標を明確に定めており、有意義な研修ができます。後期研修修了後は、豊富な疾患カテゴリーの中から、自分の興味や特性に合った専門分野を選択することができます。



連絡先 里見 淳一郎 jsatomi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7149 fax.088-632-9464
http://www.neurosurgerytokushima.com/index.html

形成外科・美容外科

(科長 中西 秀樹)

当科での研修は2つの行程があり、専門医取得するための専門医研修(4~6年間)と、その後の専門分野の強化研修になります。1年目は、大学院で形成外科の基礎知識と技術の習得のための研修を行い、2年目以降は主に関連病院で研修になります。四国各県の国公立病院で特色のある臨床研修を受けることが可能です。また、大学院での研究活動、さらに専門医取得後になりますが、海外・国内留学のチャンスも十分にあります。



連絡先 清家 卓也 seike@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7296 fax.088-633-7297
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=18

麻酔科

(科長 大下 修造)

初期研修プログラムではどの科に進んでも必要な呼吸循環管理ができることを目標としています。特に、気管挿管が自信を持ってできることを最低目標としています。後期研修プログラムでは大学と関連病院をローテーションすることであらゆる症例や状態に対応できる麻酔科医を育成し、また麻酔科関連の研究で世界に貢献できる教室を目標としています。



連絡先 角田 奈美 kakuta.nami@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7181 fax.088-633-7182
http://www.med.tokushima-u.ac.jp/article/0015541.html

救急集中治療部

(部長 西村 匡司)

徳島大学病院救急集中治療部は、急性期の重症患者の全身管理を行う集中治療医学を専門としています。重症患者では障害が単一の臓器に留まらず、全身に様々な問題が起こります。そのような患者に対しては、呼吸循環管理、急性血液浄化、栄養管理や感染症対策など総合的に評価、治療する能力が必要とされます。集中治療医学部では、急性期の全身管理に興味のある人を募集しています。ぜひ私たちと一緒に働いてみませんか。



連絡先 小野寺 睦雄 m-onodera@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-9347 fax.088-633-9339
http://sv01.inter-bus.jp/~toku_icu/

研修するならば徳島大学へ!



研修医紹介

現在、徳島大学病院で研修中の研修医

1年次研修医

小林 直登
西田 望
濱 紳悟
板井 美樹
岩崎 丈紘
植村 勇太
大田 健人
幸田 舞子
坂本 晋一
佐埜 弘樹
末廣 穰
曾我部 公子
高橋 彩加
谷口 若葉

車 寛子
寺奥 大貴
中西 嘉憲
西村 光太郎
羽星 辰哉
福家 慧
藤田 美香
松田 華子
松本 和久
宮内 雅弘
山崎 裕行
横田 有理
古本 哲朗
松崎 苑美

2年次研修医

河野 奈緒子
大豆本 圭
三宅 毅志
尾本 貴志
香川 智洋
影本 開三
杉浦 宏祐
田岡 志保
高橋 真美子
宮本 佳美
立花 綾香

前回の
News Letter
発行後に戻ってきた
2年次研修医です！



毛山 剛
(けやま つよし)
一人前の形成外科医を目指してがんばります。そのためにも、一日一日を大切にしていきたいです。



藤村 仁美
(ふじむら ひとみ)
知識、技術、思いやりの心を持ち合わせた医師になれるよう、初心を忘れず精進します。ご指導よろしくお願いたします。



松本 友里
(まつもと ゆり)
日々の診療を大切に一生懸命頑張ります。ご指導よろしくお願致します。



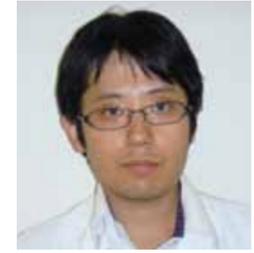
森住 俊
(もりずみ しゅん)
これまでの経験を活かしながら有意義な研修生活を送りたいと思っております。ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



高橋 直希
(たかはし なおき)
忘れていたことも多いので、早く病院に慣れるように頑張ります。宜しくお願いします。



田根 なつ紀
(たね なつぎ)
半年ぶりに徳島大学病院に戻り、気持ち新たに研修に励みたいと思います。よろしくお願いたします。



長坂 信司
(ながさか しんじ)
9カ月ぶりに再び母校に戻ってきました。残りの研修も頑張りたいと思っております。

第2回 研修医のためのキャリアデザインセミナー

～私はこう考え、こう歩んだ～

昨年に引き続き今年も8月22日(水)にキャリアデザインセミナーを西病棟11階日亜メディカルホールで行いました。これは卒後臨床研修センターがキャリア形成支援センターと共催で厚仁会のバックアップの下、初期研修から専門医研修への橋渡しのサポートとなるべく昨年からはじめた試みです。右記にご紹介した、それぞれ個性豊かな経歴をお持ちの若手の先生を講師としてお招きし、ご自身のキャリアデザインについてお話していただきました。

会場には各診療科の先生方や研修医のみならず、医学科の学生の方も多くつめかけるなど多数のご参加をいただきました。研修医や学生達にとってもこれから自分たちが進む道を考えるよいきっかけやモチベーションとなったのではないのでしょうか。

その後、引き続き懇親会として夏の恒例行事となったビアパーティーを行い、こちらも盛況のうちに終わることができました。

ご講演くださった三人の先生方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

キャリアデザインセミナーの講師の先生方

山田 眞一郎 先生 消化器・移植外科
『魅力的な外科医を目指して』

渡部 真也 先生 精神科神経科
『精神科医として、一人の人間としてのキャリア形成』

小笠原 梢 先生 循環器内科
『攻めのキャリアデザインのすすめ～手持ち研修医として、そして循環器内科医へ～』



ビアパーティー(西病棟11階「ウエルカ」)

徳島医学会学術集会

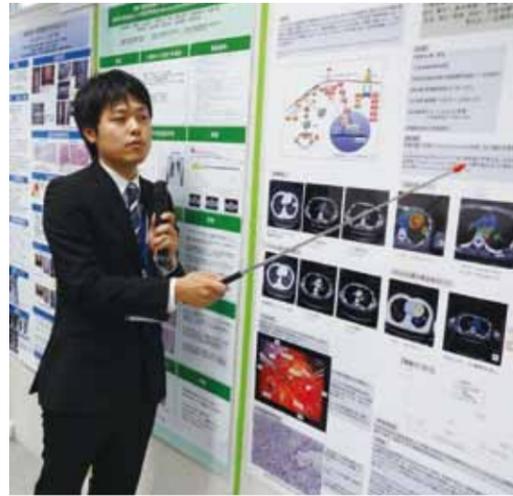
平成24年7月29日(日)に徳島県医師会館で第245回徳島医学会学術集会が行われました。例年、研修医による発表も行われており、今年もたくさんの研修医がポスター発表を行いました。どの先生のポスターも力作ぞろいで、発表も堂々としたものでした。この会では優秀な発表を行った研修医を対象に若手奨励賞が授与されており、第8回若手奨励賞は、羽星辰哉先生、坂本晋一先生、松本和久先生が獲得しました。

県内・四国内のみならず、国内の各種学会、国際学会で発表する研修医もあり、発表を一つ終わるとまた一段と成長しているようです。貴重な機会を与えていただき、指導して下さる各診療科の先生方に感謝しています。この場を借りてお礼申し上げます。

若手奨励賞受賞



羽星 辰哉先生 (1年次 研修診療科:脳神経外科)
「くも膜下出血に続発したNeurogenic stress cardiomyopathy」



坂本 晋一先生 (1年次 研修診療科:呼吸器外科)
「EGFR-TKIでinduction therapyを行った左肺癌の1手術例」



松本 和久先生 (1年次 研修診療科:循環器内科)
「プロテインC活性低下を背景とし、オートマチック車への変更を契機に肺血栓塞栓症を発症したタクシー運転手の一例」

医員募集

平成25年度の医員募集情報

徳島大学病院では、下記の要領で、平成25年度の医員(3年目以降の専門医研修者を含む)を募集します。

平成25年度の医員募集の概要

条件	医師免許取得後2年以上臨床研修を行った者または、平成25年3月までに卒後臨床研修を修了(予定)している者。
募集人数	170名(ただし、専門医研修希望者はすべて受け入れます)。
処遇	国立大学法人徳島大学有期雇用職員就業規則による。
募集のための書類	希望する当該診療科または 徳島大学総務部人事課蔵本人事係にお問い合わせください。
募集の締め切り	平成25年1月中旬
問い合わせ先	採用希望される場合は、随時、各診療科または 総務部人事課蔵本人事係までお問い合わせください。 人事課蔵本人事係 Tel.088-633-7018 Fax.088-633-7474

編集後記

暑かった夏が終わり、今年度も後半に差し掛かってきました。研修も佳境を迎え、研修医たちも毎日遅くまでお互い切磋琢磨しながら日々成長していています。今号では徳島大学病院の各診療科についてご紹介しましたが、2年目の研修医たちにとっては初期研修修了後の進路について頭を悩ます時期でもあります。どのような道に進むにしても悔いのない選択をして欲しいと願い、当センターでもサポートしていきたいと思っております。卒後臨床研修や専門医研修に関すること、このニュースレターに関すること等、何かありましたらご連絡ください。(W)

■ ニュースレターに関する御意見・ご要望など、お気軽にお寄せください。
bsotsugo@tokushima-u.ac.jp



徳島大学病院卒後臨床研修センター
Tel: 088-633-9359 または 9976
Fax: 088-633-9358
E-mail: bsotsugo@tokushima-u.ac.jp
URL: http://www.tokudai-sotsugo.jp